

2023.11.14

総合計画審議会  
総会資料

資料第3号

# 「施策間連携サミット」 「尼崎版SDGs2023Ver.」のご報告

尼崎市 都市政策課

# 「施策間連携サミット」

# 「施策間連携サミット」

## 【開催日時】

令和5年8月1日（火）午後1時30分～3時30分

令和2年度より例年実施  
今年で4回目

## 【参加者】

分野別マスタープラン等を所掌する審議会等の代表者、市長、副市長

## 【開催目的】

施策間の連携強化に向けて、  
市の内部だけでなく、市と審議会、審議会間の総合的かつ横断的な情報共有・意見交換を行う

## 【開催内容】

市長講演、各審議会からの報告、意見交換



# 「施策間連携サミット」

## 【審議会等代表者からの報告（一部抜粋）】

### ○総合計画審議会 久会長

総合計画の施策1「地域コミュニティ・学び」を位置づけており、他の施策分野においても、生涯学習の仕組みをうまく使いながら地域との協働を進めていただきたい

### ○（旧）教育振興基本計画懇話会 川上委員

市内での異動が多い尼崎の教員の特徴を活かしていくことで、尼崎市の教育の特色を出していける余地がある

### ○子ども・子育て審議会 瀧川委員

この数年で子ども・子育てを取り巻く環境が変わるなかで、国の動向を見据えながら、新たなことをどのように取り入れていくかが課題となる

### ○地域保健問題審議会 藤原会長

喫煙率やリスクファクターとなる程の飲酒量がある人の割合は、男性は下がっているのに対して、女性は上がっている。このことについて、審議会でも継続的にフォローしていきたい

### ○産業振興推進協議会 加藤会長

尼崎は良い産業都市としてのリソースを持っているため、繋がりを作ったり、刺激を与えたりという尼崎を動かすということが重要ではないか

### ○環境審議会 東海会長

教育と環境問題は超長期にわたる転換を考える上で、密接な繋がりがあり、特に小学校のごみ処理施設見学の取組は、大変有意義である

## 「施策間連携サミット」 【審議会等代表者からの報告（一部抜粋）】

### ○人権文化いきづくまちづくり審議会 武本副会長

人権問題が近年、非常に多様化しているが、一方で、以前からある同和問題等の人権問題への意識が薄まっているという課題もある

### ○社会保障審議会 松原委員長

重層的支援の推進にあたり、担当課によるワンストップな対応だけでなく、南北福祉センターや地域振興センター、地域の連協・単協といった枠組みを組み合わせることが大切ではないか

### ○都市計画審議会 三谷会長

他の施策が抱える課題を聞いたことで、例えば健康寿命の延伸という課題に対して、運動する公園はどうかといった議論を都市計画審議会ですればよい施策間連携になると思う

### ○住宅政策分科会 岡会長

「地域活動に参加しているか」という成果指標が伸び悩んでいるが、地域活動という言葉の意味も、旧来型の自治体活動というものから変わっているのではないかとの議論があった

## 「施策間連携サミット」【意見交換（一部抜粋）】

### 【市長の課題意識】

- ▶ 子育て支援の充実について、施設に対する充実と個人に対する充実はどちらに重点を置くべきか
- ▶ 多様化する人権問題について、どこまで行政が積極的に関与していくべきか
- ▶ 学校を地域に開かれた公共施設として教育用途以外にも活用する際の運用のあり方はどうあるべきか

### 【主な意見等】

- ▶ 子育て支援の個人への給付はかなり充実してきている。一方で、保育料無償化などにより、保育が長時間化し、保育の質の保障面で課題があるのではないかと。
- ▶ どこまでが人権問題なのかという点は、審議会でも議論になったが、定義づけは困難であった。市としては、人権問題に対する意識を子どもたちからしっかりと持ってもらうアプローチが良いのではないかと。
- ▶ 学校の地域開放については、些細な工夫次第で対応できるのではないかと。一方で、地域コミュニティの地区割と学校区がずれて存在しているのは課題になるのではないかと。

# 「施策間連携サミット」

## 【今後の展望】

- 「サミットに参加して、改めて連携の重要性を確認できた。他の審議会の課題を知り、それらの課題に対して何か自らの審議会で手助けできることはないかを考える大変有意義な機会であった。」とのご意見があった。
- 一方で、限られた時間の中で、各審議会の課題認識の情報共有を図ることができたものの、審議会相互の十分な意見交換の時間が取ることができなかった。
- こうしたことから、施策間連携に向け、市と審議会、審議会相互のより活発な情報共有・意見交換の場となるよう、開催手法を工夫しながら、今後も引き続き定期的を開催していく。

# 「尼崎版SDGs2023Ver.」

# 「尼崎版SDGs2023Ver.」

○尼崎版SDGsについて

SDGsがめざす誰一人取り残さない社会の実現は、  
本市がすすめるまちづくりとスケールは異なるものの方向性は同じ

総合計画に基づくまちづくりを推進することにより、  
SDGsの達成を目指して、「尼崎版SDGs」を作成。



今年度、第6次総合計画の始動を踏まえて、  
新たな施策体系や取組内容に更新

SDGs (Sustainable Development Goals)  
世界を変えるための17の目標



Amagasaki SDGs 2023ver.

尼崎を変えるための13の施策  
ひと咲き まち咲き あまがさき

SDGsのゴールと自治体が果たしうる役割



海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

ターゲットNo.  
14.1, 14.2

自治体は、海洋汚染の主な原因が陸上の活動に起因していることから、汚染対策を講じることができます。

総合計画に基づく主な取組

尼崎市の主な取組

**尼崎運河を活用した水質浄化の取組**

自然と人と産業との良好な共生関係を目指し、兵庫県、地域住民、周辺企業などと尼崎運河再生プロジェクトを協働で進めています。

**脱プラの推進**

市内で実施するイベント主催者に対して、プラスチック代替製品のレンタル又は購入費用の一部を補助することにより、プラスチック代替製品への転換を促すとともに、市民及び事業者におけるプラスチックごみ削減の取組拡大と意識啓発を図ります。

**大阪湾の水環境を守る下水処理**

大阪湾で定められた環境保全目標の達成に向けて、通常の下水処理に加えて、窒素やリンを取り除き、より水質改善を図る高度処理設備の導入を東部浄化センター及び北部浄化センターで進めています。

市民、事業者も含めた“尼崎市”のトピックス

トピックス

**フィッシュ・シェアリングの取組**

防波堤「武庫川一文字（通称）」へ釣り人を渡す渡船会社の武庫川渡船や、尼崎市立魚釣り公園では、釣り人から釣れた魚の余剰分を提供してもらい、地域の子ども食堂に提供したり、食育活動を実施している福祉団体などに提供する「フィッシュ・シェアリング」に取り組んでいます。



釣り人から提供された魚



釣り人から無償提供された魚を子ども食堂で調理・提供

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



すべての人に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

ターゲットNo.

7.1, 7.2, 7.3, 7.a

市長定例記者会見資料

市長定例記者会見より



環境モデル都市  
あまがさき

令和5年9月20日

所 属	環境創造課
所属長	宗和 素子
電 話	06-6489-6301

### 公用車へのエコカー導入とEVカーシェア体験キャンペーンの実施

尼崎市は、特殊車両(例:救急車・パッカー車)等を除く公用車を順次ガソリン車から電気自動車(EV)などのエコカー※へ転換する取り組みを始めます。今年度は、12月までに20台のEVを導入します。

また、市内のEVカーシェアステーションの周知とEVカーシェア利用促進のため、電子地域通貨「あま咲きコイン」を使ったEVカーシェア体験キャンペーンを実施します。

これらにより、ガソリン車からエコカーへの転換やシェアリングによる車両台数の削減を目指し、市内運輸部門 CO2 排出量の削減を図ります。更に、今後、エコカーを災害発生時の非常用電源として活用することも検討していきます。

※EV・FCV(燃料電池自動車)等走行時にCO2を排出しない車種

#### 1 公用車へのエコカー導入

2040年までに特殊車両等を除くすべての公用車(令和5年9月1日現在148台)をエコカーに転換することを目指します。

(1) 今年度の導入車種と台数、納車時期 **モニターでの補足説明あり**

- ①三菱自動車・ミニキャブミーブ 13台(9月導入済)
- ②三菱自動車・eKクロス 7台(10~11月導入予定) 計20台



①三菱・ミニキャブミーブ(航続距離:133km)



②三菱・eKクロス(航続距離:180km)

物への省/再エネの推進、住民の省/再エネ対策への支援などにより、持続可能エネルギーの  
ができます。

### 電を活用したエネルギーの地産地消の取組

施設であるクリーンセンターの廃棄物発電から発生する余剰電力の一部を小売電気事業者等を  
電力を市内事業者積極的に活用してもらうなど、脱炭素経営に向けた取組を支援していま  
1社の市内事業者への電力供給が決定しています。

### 及

一次エネルギーの年間消費量がおおむねゼロになる住まい(ZEH)や太陽光発電及び蓄電池  
020(令和2)年度からは、マンションや街区内でのエネルギー管理を推進するとともに、環  
など、付加価値のあるまちづくりを進めています。

#### 導入促進



クリーンセンターの太陽光発電

#### 公用車へのエコカー導入の取組

脱炭素社会の実現に向け、今後、公用車のエコカーへの転換と保有台数の削減に取り組み、2040年までにエコカー導入率100%を目指します。



充電器の整備が可能な施設から順次エコカーに置き換え予定

11 住み続けられる  
まちづくりを



## 都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱（レント）かつ持続可能にする

自治体は、包括的で、安全かつ強靱で持続可能なまちづくりにおいて

### 尼崎市の主な取組

#### エリアブランディングの取組の推進

エリアブランディングの推進に当たっては、鉄道駅周辺を中心としたエリアごとの面から多様な主体と連携しながら進めています。特に尼崎市のイメージを形成する工前にある中央公園を市内外から人が集い様々な形で活用される場としてリニューアルに取り組んでいます。

#### マナー向上の取組の推進

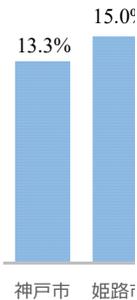
誰もが気持ちよく暮らすことができるまちの実現に向けて、「ファミリー世帯の転出抑制」、「自転車（交通安全）」のマナーについて、日常生活の様々な場面で啓発など取組を進めています。

### 尼崎市に空き家は多いの??



住宅・土地統計調査によると、近隣市と比較し、尼崎市の空き家率は高い傾向にあり、今後もさらに増加すると予想されています。

尼崎市では、空き家となる前から住まいについて考えてもらえるよう、「私と住まいのエンディングノート」を株式会社ジチタイアド（福岡市）と協働で作成しています。ご自身の思いや住まい・財産のことなど、書き進めるうちに自然と整理できる内容となっているためぜひご活用ください。



### トピックス

## 計画、続々進行中 アマはこう変わる!

市報あまがさき9月号より

本市では、地域の特性を生かしたまちづくりを市内各所で進めています。鉄道駅周辺を中心とした駅前広場などの整備や大規模な住宅開発などを紹介します。☎政策推進課6489 - 6124 ☎6489 - 6793



# 「尼崎版SDGs2023Ver.」

裏表紙には  
総合計画の13の施策と  
SDGsの17のゴールの  
関係性を整理



## 総合計画×SDGs (総合計画の13施策とSDGsの17のゴールの関係)

総合計画の13施策・施策目標	SDGsの17のゴール
<b>【施策 1】 地域コミュニティ・学び</b> まちにかかわるすべての人が、ともに学び、考え、お互いの力を出し合う自治のまちづくりを推進することで、まちへの愛着を深め、魅力あふれるまちをめざします	
<b>【施策 2】 人権尊重・多文化共生</b> 誰もが人権侵害を受けず、権利を行使できる主体として認められ、日々のくらしのなかで尊重されていると実感できるまちをめざします	
<b>【施策 3】 学校教育</b> 社会の変化に主体的かつ柔軟に他者と協働しながら対応する力、知識や技能を活用して課題を解決する力、持続可能な新しい社会を創造する力をはぐむ教育をめざします	
<b>【施策 4】 子ども・子育て支援</b> 子どもの笑顔が輝くまちをめざします	
<b>【施策 5】 地域福祉</b> 互いに尊重し、つながり支えあい、安全・安心に“ともにいきる”まちをめざします	
<b>【施策 6】 障害者支援</b> 誰もがその人らしく、自立して安心に暮らすことができる共生社会をめざします	
<b>【施策 7】 高齢者支援</b> 高齢者が尊厳を保ち、安全・安心に健康で多様な暮らし方ができるさえあいのまちをめざします	